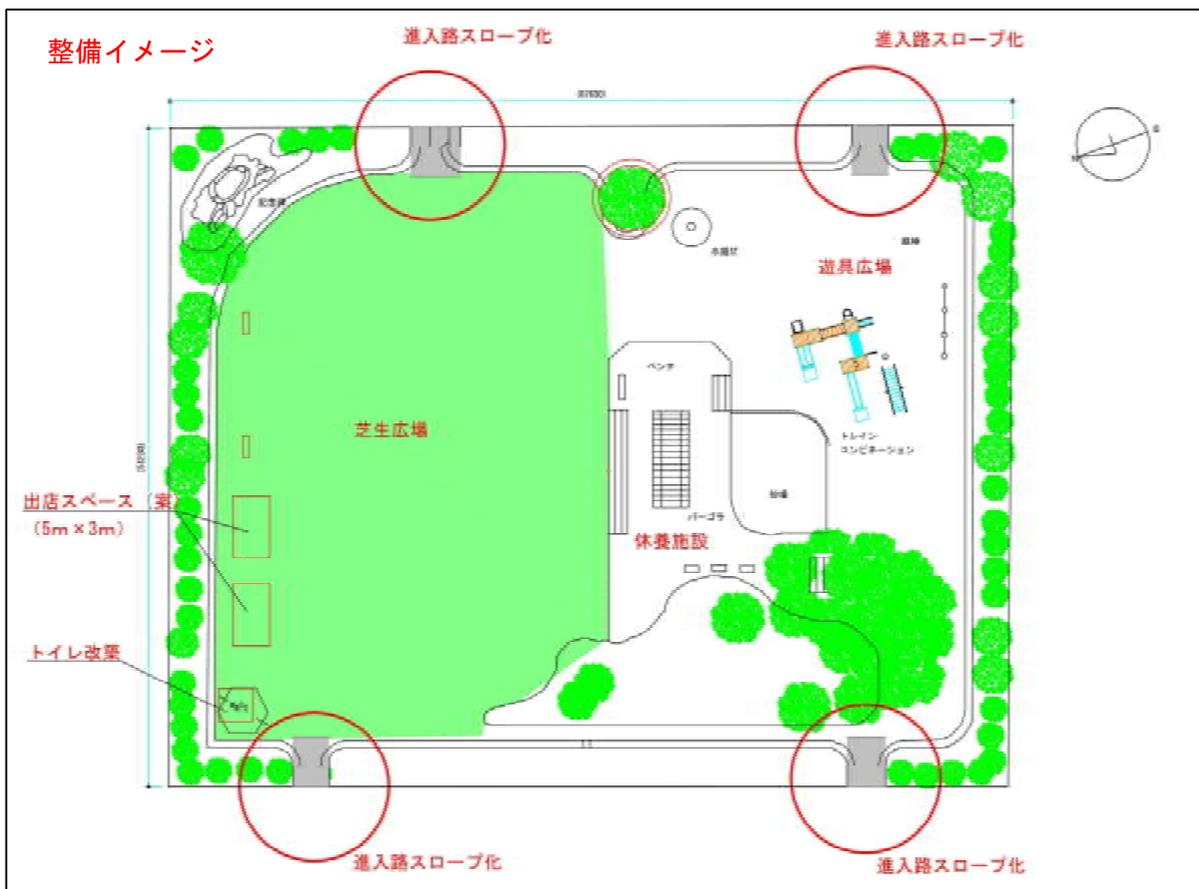
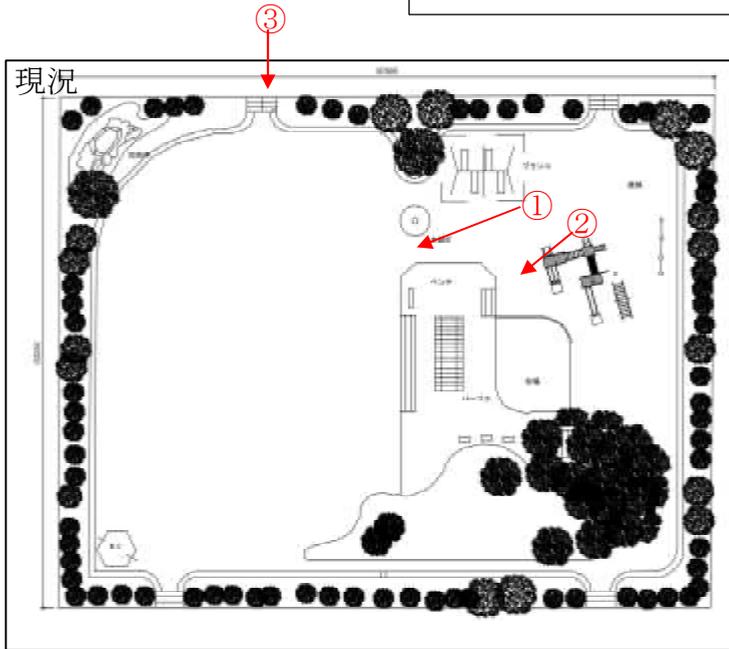


目久美公園整備イメージ



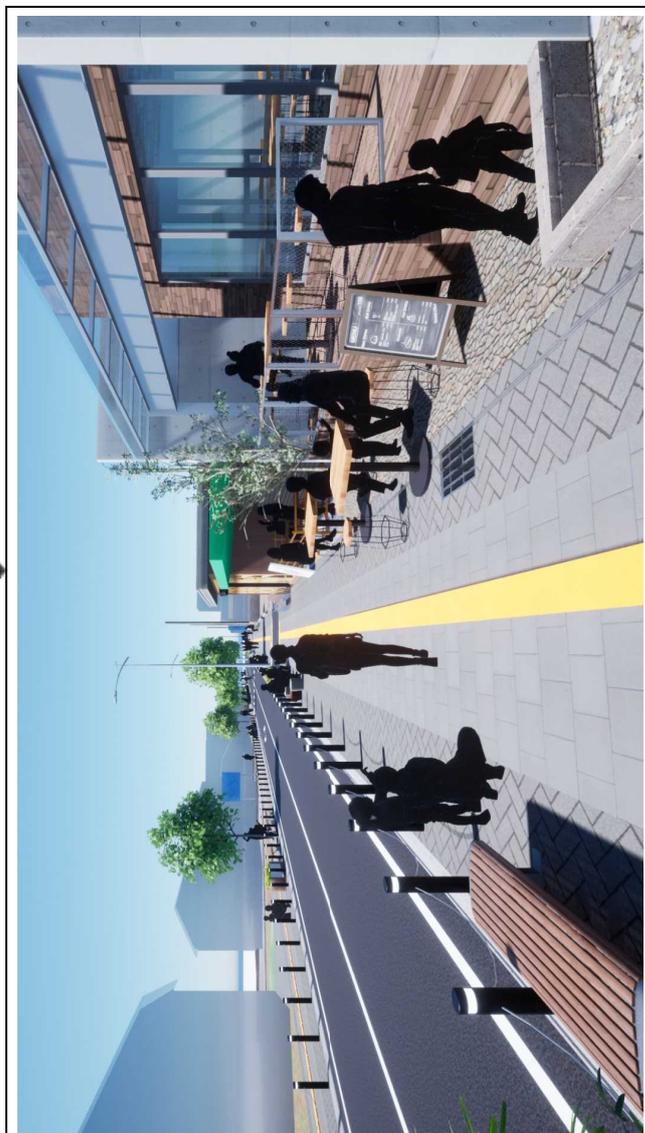
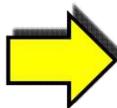
目標とする空間の設定

- ・街区公園の利用想定者である 250m 圏内の住民だけでなく、公共交通機関の利用者を想定した公園整備を行う。
- ・歩きたくなるまちなかにおける居心地の良い休憩スペースとしての役割を担う。
- ・令和 4 年度：米子工業高等専門学校の専攻科の学生から上記基本方針を踏まえたデザイン案の検討・提案を受ける。
- ・令和 5 年度は提案を受けた基本計画を基に、令和 6 年度の工事実施に向け設計・調整を行う。

市道米子駅目久美町線 整備イメージ



現況



整備後イメージ

※整備後イメージは案のため、変更となる場合があります。



全国初のかわまちウォーカブルエリアへ！

新商都米子の核となる「3つのエリア」と
それをつなぐ「2つの移動軸」による
「かわまちウォーカブル」エリアの実現

拠点の魅力の底上げと機能向上
ネットワーク化による魅力の相乗的な価値向上

拠点③米子港
まちなかと水辺をつなぐ
かわまちづくり拠点

拠点①城下町エリア
城下町の町割りを活かした
まちなかウォーカブルエリア

拠点②米子駅
「ウォーカブルエリアの拠点」
南北の特性にあわせた
広場のコンセプトと機能分担

北口：エリアの玄関となる「港口」
・米子城や米子港、皆生温泉への交通拠点
・来訪者への玄関口として観光案内や滞留空間

南口：自然を臨むアクティビティ拠点「大山口」
・東山公園や大山などに向かう活動拠点

ふたつのエリアをつなぐ南北自由通路

移動軸①駅前大通り
人中心の移動と滞留の都市軸

移動軸②中海と加茂川
水運文化を活かした
海と河川の水上交通

道路と河川(海)、ふたつの「ストリート」がつながり
米子の歴史と地形が作る「かわまちウォーカブル」

豊富な移動選択性と、豊かな地域の歴史景観
全国でも類をみないウォーカブルエリアの実現

商都米子の歴史と自然が生んだ二つのウォークブルエリア 米子城下エリア・皆生温泉エリアをつなぐ都市構造

日本海

皆生温泉ウォークブルエリア

- ・ウォークブルなまちづくりに向けた計画・実践が先行
- ・海沿い遊歩道から四条通り(ライン)の空間改変とエリア玄関口としての観光センターの活用



ふたつのウォークブルエリアをつなぐ



米子城下ウォークブルエリア

- ・小路の残る城下町に、外堀から続く加茂川が交わる動的なまちの構造と新しくなる米子駅・米子港が一体となった「かわまち」ウォークブルエリアの創出
- ・駅や公会堂、港、河岸など既存の都市インフラを活かしたモビリティハブのネットワーク構築によりワンマイルの移動を支え、エリア内の移動選択性を高める。

米子電気軌道跡(県道207号)
皆生温泉を開発した有本松太郎が残した「2つの海」をつなぐ都市軸



- : みちまちハブ
- : かわまちハブ
- : 都市再生整備計画区域
- ▨ : 都市機能誘導区域

N
0 200 500 1000(m)